

まちづくり View

No.67

目次

- 特集 白山市横江町土地区画整理事業について ……1
- あのまち、このまち“まちづくりめぐり”
 - 金沢城北市民運動公園内の金沢スタジアムの整備 ……3
 - 金沢美術工芸大学新キャンパス 供用開始 ……4
- センターだより ……5

特集

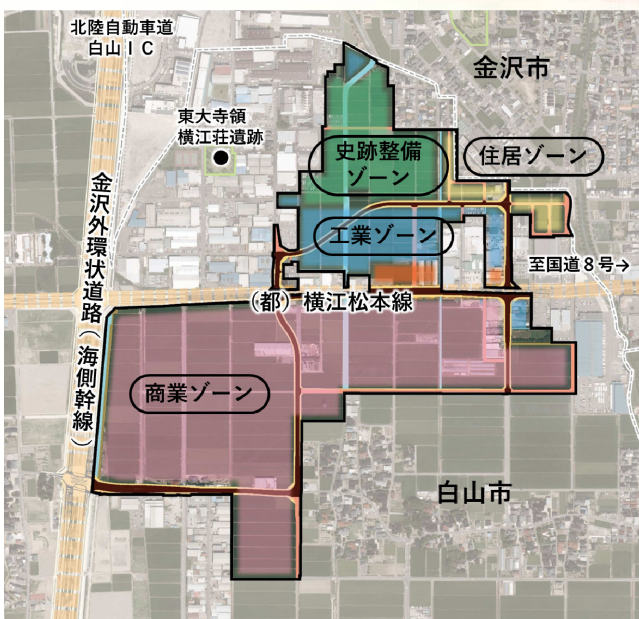
白山市横江町土地区画整理事業について

1 はじめに

本地区は、白山市の北東部に位置しており、金沢外環状道路（海側幹線）に面し、国道8号や北陸自動車道白山ICへのアクセスが良いことから、大規模商業施設の誘致を中心に進めてられてきた土地区画整理事業です。

2 事業概要

- 事業名：白山市横江町土地区画整理事業
- 事業主体：白山市横江町土地区画整理組合
- 施行面積：48.4ha
- 施行期間：平成27年度～令和5年度
- 総事業費：79.2億円
- 組合員数：152名
- 減歩率：31.3%
- 施行後土地利用：
 - 商業ゾーン 32.4ha
 - 工業ゾーン 7.6ha
 - 史跡整備ゾーン 6.4ha
 - 住居ゾーン 2.0ha
- 主な公共施設：
 - (都)横江松本線 W=25m、L=560m 他3路線



▲土地利用ゾーニング

平成28年2月の組合設立以降、(株)クスリのアオキ本社、かなざわ食マネジメント専門職大学[※]、大規模商業施設であるイオンモール白山店などを誘致しました。

※「食」に特化した経営学を学ぶ4年制大学

3 取組内容：開業時の渋滞対策

近年、県内では大規模商業施設オープン時の渋滞が問題となっていました。本地区でも、主要幹線道路沿いに多くの商業施設を誘致したため、開業時の交通渋滞の解消が喫緊の課題となっていたことから、ハードとソフトの両面での対策を進めました。

(1) ハード対策

商業施設が本地区内への出店表明を行った平成26年から、大規模小売店舗立地法と同じ手法で方面別来店車両を算出し、各交差点の交通量解析を実施しました。また、道路管理者や公安委員会と協議を重ね、商業施設周辺の道路整備計画を策定し、その計画を踏まえ、金沢外環状道路（海側幹線）と都市計画道路横江松本線の幹線道路2路線から交通量を分散させるための補助路線を整備するとともに、各交差点に信号機を設置しました。

(2) ソフト対策

①大規模小売店舗立地法の協議

大規模小売店舗立地法の指針を基本に、10箇所の出入口を設け、方面別来店車両を分散させる計画としました。

【大規模小売店舗立地法の指針（抜粋）】

駐車場の出入りは左折を原則とし、駐車場内及び出入口においては入庫車、出庫車、自転車、歩行者等の動線を分離することにより円滑な出入庫や駐車が可能となるよう配慮すること

また、満車時の対策として、敷地内の建物周りに約1kmの車両が滞留できる環状通路をつくり、満車時でも駐車場内に車両を引き込み、公道にはみ出さないようにしました。

②交通誘導計画の策定

周辺の町内生活道路の抜け道利用防止、国道8号御経塚交差点への交通負荷軽減など、交通状況に応じた交通の分散を行うため、交通誘導員や案内看板により誘導を行う計画を策定し、実施しました。

③開業直後の来店車両の軽減策

大規模商業施設の開業日を、近隣住民向けのオープンと、一般向けのグランドオープンの2段階に設定し、来店が最も多く見込まれる開業後初めての土日を近隣住民向けとすることで、来店者の軽減を図りました。

また、公共交通機関での来店者を増やすため、開業約2年前からバス事業者と協議を重ね、鉄道駅と商業施設の間を1日約30便運行するバス路線が新

設されました。

④渋滞対策本部の設置

大規模商業施設の開業にあたり、商業施設敷地内に渋滞対策本部を設置しました。交通誘導員、周辺道路のパトロール員からの情報や、駐車場の空き状況、出入口別の出入庫台数等を本部で集約し、交通誘導計画に従い、適正な交通誘導を実施しました。

これらの細やかなハード・ソフト対策により、駐車場が満車となった場合でも、全く問題となることはなく、今も道路渋滞は発生していません。



▲開業後の周辺道路の状況



▲大規模商業施設のバスターミナル

4 おわりに

本市の掲げる将来都市像「健康で笑顔あふれる元気都市 白山」の実現に向け、これまで多くの地区画整理事業を実施してきました。本地区においては、商業施設開業から3年経った現在も市外から多くの家族連れが訪れ、賑わいを持続している状況です。今後、賑わい拠点の更なる強化も図るため、区域内にある東大寺領横江荘遺跡に史跡公園を整備するなど、引き続き住みよいまちづくりを進めていきます。

【問合わせ先】

白山市建設部都市計画課

TEL:076-274-9558

E-mail:keikaku@city.hakusan.lg.jp

金沢城北市民運動公園内の金沢スタジアムの整備

1 はじめに

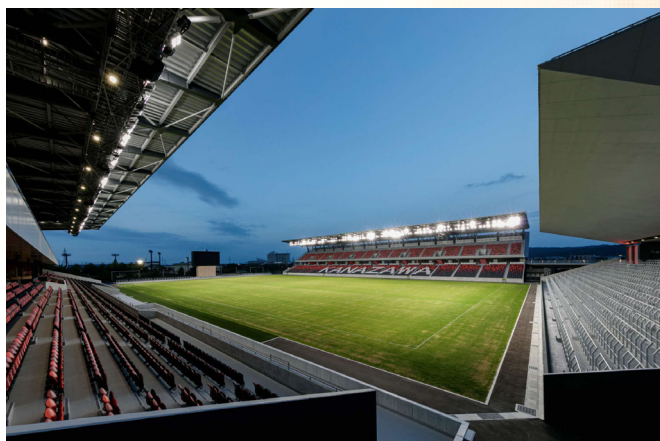
金沢市は、北陸初のＪリーグ規格を満たすフットボール専用スタジアム「金沢スタジアム」を金沢城北市民運動公園内に整備しました。

金沢城北市民運動公園は、金沢市制百年記念事業により、本市初の本格的な運動公園として整備された公園であり、運動公園としてのさらなる魅力向上を図るべく金沢スタジアムの整備に取り組み、令和6年2月18日にオープンしました。

2 施設の特徴

金沢スタジアムは、大会やイベント等の開催による地域活性化を促す場としての活用を想定しているのはもちろんですが、全ての人々が安心して快適に利用できる施設づくりにも取り組んでいます。雨天時にも快適に観戦できるよう全ての観客席に屋根を整備するとともに、車椅子席、授乳室、多目的トイレの整備などユニバーサルデザインに配慮したつくりとなっています。

また、災害時において生活機能を維持できる施設づくりという整備方針も持ち合わせており、防災備蓄倉庫の機能を備えています。金沢城北市民運動公園内には、屋内避難場所として指定されている金沢プール等の施設があり、それら既存施設とあわせて今回整備した金沢スタジアムを物資の供給拠点や一時避難場所として活用することで、金沢城北市民運動公園が市内北部地区における新たな防災拠点としての役割を担っていくことを想定しています。

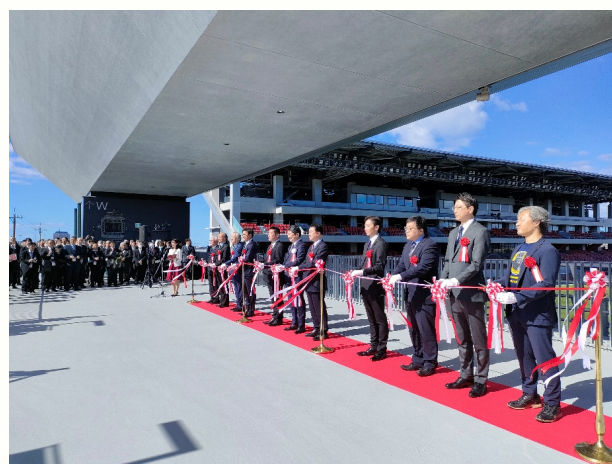


▲金沢スタジアム内観

3 完成記念式典

令和6年2月18日には、国や県をはじめ多数の関係者ご列席のもと、完成記念式典を開催しました。

また、式典後には、こけら落としとしてホームタウンチームであるツエーゲン金沢とカタレ富山のオープニングマッチを行い、8,566人の観客が来場されました。



▲完成式典の様子

4 おわりに

金沢スタジアムは、スタンド最前列からピッチまでの距離が7～9mと非常に近く、臨場感あふれる観戦環境の中、トップレベルの試合を目の前で体感することで、子どもたちの夢と憧れの舞台となるような魅力的なスポーツ施設を目指しています。

また、あめるんパーク等の周辺施設と連携した「にぎわいスペース」も整備していることから、地域経済の活性化や新たな賑わいの創出の場として活用いただけることを期待しています。

最後に、本スタジアムの整備に多大なるご尽力を賜りました関係各位に、心から感謝を申し上げます。

【問合わせ先】

金沢市都市整備局緑と花の課

TEL:076-220-2356

E-mail:midobana@city.kanazawa.lg.jp

金沢美術工芸大学新キャンパス 供用開始

1 はじめに

金沢美術工芸大学は、昭和 21 年、金沢市民の熱意により創立され、昭和 47 年に小立野 5 丁目にキャンパスを整備しました。その後、施設の老朽化に加え、芸術分野の多様化への対応など教育研究環境の向上が求められたことから、小立野 2 丁目の金沢大学工学部跡地に新キャンパスを整備し、令和 5 年 10 月に供用開始しました。

2 事業概要

平成 26 年度 「世界の交流拠点都市金沢重点戦略計画」に移転整備を位置づけ

平成 28～29 年度 基本構想・基本計画策定

平成 30～令和 2 年度 基本設計・実施設計

令和 2～5 年度 建設工事・外構工事

3 施設概要

所在地：金沢市小立野 2 丁目 40 番 1 号

敷地面積：47,212.87 m²／建築面積：18,608.87 m²

延床面積：35,357.65 m²

構造規模：鉄筋コンクリート造 地上 3 階地下 1 階



▲キャンパス全景

4 施設の特徴

移転整備のコンセプトを「開かれた美の探求と創造のコミュニティ」とし、門や塀を設けず、随所に展示スペースを設けることで、学生が制作した作品を来訪者が気軽に鑑賞でき、美に触れることができる環境となっています。



▲キャンパスのメインストリート(アートプロムナード)

また、周辺が住宅地であることから、建物による圧迫感の軽減、制作音などの騒音にも配慮した配置計画としながら、道路に面した部分に緑やベンチなどを設けた歩道状の空地や、地区の回遊性を高める遊歩道の整備を行い、周辺の住環境向上にも寄与しています。



▲緑やベンチを設けた歩道上の空地

5 おわりに

新キャンパスが、様々な分野で活躍する人材を育成する新たな知と創造の拠点になるとともに、地域の人に愛されるキャンパスになることを願っています。

【問合わせ先】

金沢市都市政策局企画調整課

TEL:076-220-2031

E-mail:kikaku@city.kanazawa.lg.jp

センターだより

この度、公益財団法人いしかわまちづくり技術センターは、令和6年3月31日をもって解散することになりました。これまでの皆さまからの多大なご支援ご協力に心より感謝申し上げます。

この「センターだより」は今回が最終回です。そこで、これまで行ってきた取り組みについて振り返るとともに、今年度の活動と併せてご紹介いたします。

まちづくりの啓発や普及をサポート

■ 街並み・まちづくりシンポジウム

まちづくりに関する最新の話題や課題をテーマにしたシンポジウムを開催し、基調講演やパネルディスカッションを通じて地域の皆さんの「意識高揚」「普及と参画促進」「きっかけづくり」に取り組みました。

今年度は No.66 号でご紹介したとおり、10月にかほく市にて「スポーツによる地域活性化」をテーマに今後のまちづくりのあり方について考えました。

■ まちづくり研修会

まちづくりに必要な視点や考え方について、自分たちの地域でも活用できるよう、専門家による講義や先進事例紹介、まちづくりリーダーを交えたグループワークを実施しました。

今年度は、11月29日(水)に県立図書館にて「楽しい会話から生まれるアイデア-跡地利用リニューアル計画-」と題し、あらゆる立場の人の意見を円滑に導くファシリテーションを体験しながら「まちなかの跡地利活用」についての提案をまとめました。



▲ 研修会の様子

■ まちづくり専門家の派遣

地域で実施するまちづくり勉強会や講習会に専門家(アドバイザー)を派遣し、まちづくり活動を支援してきました。今年度は、地域防災講習会やまちづくり協議会設立に関する勉強会といった内容が多く、参

加された方々の意識がより高まったと感じています。



▲ まちづくり専門家の派遣による勉強会・ワークショップ

住民主体のまちづくり活動をサポート

■ いしかわこどもの未来創造まちづくり事業

将来の地域のリーダーとなる子どもたちと共に行うまちづくり活動(まちづくり学習)への支援を、平成9年度の前身事業から継続しており、今年度は、6件の活動に助成しました。



■ 我(和)がまちづくり(いしかわ地域の魅力創造まちづくり事業)
“元気な住民と元気なまち”をつくりだすための、風土・食・伝統をテーマとした継続的なまちづくり活動への支援を平成23年度から行い、今年度は、5件の活動に助成しました。



■ まちづくりリーダー研修会

今年は、令和6年能登半島地震のため中止となりましたが、これまでの研修会は、助成を受けた皆さんの活動報告をはじめ、情報交換や交流の場として、地域で頑張る皆さんの生の声や活動からの学びがある有意義な機会でした。

編集後記

最終回のセンターだよりは、これまでの取り組みを振り返りご紹介しました。地域住民が主体となって行うまちづくり活動の後押しや、皆さまの学びのお手伝いなど、住民と行政相互の橋渡しができるようにとの想いで努めてまいりました。少しでもお役に立てていれば幸いです。

これまで長きにわたり見守ってくださり、本当にありがとうございました。皆さまの地域のまちづくりをこれからも応援しています。

編集協力:金沢市(緑と花の課、金沢美術工芸大学建設事務所)、白山市

発行:公益財団法人 いしかわまちづくり技術センター

TEL: 076-239-1616

FAX: 076-239-1606

HP: <https://www.machisen.jp/>

発行日:令和6年3月